

学校番号	11	学校名	藤枝特別支援学校 焼津分校	校長名	鈴木 和裕
------	----	-----	---------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	人権意識を高める	アンケートによるいじめの兆候に対する早期発見、早期対応 100%	アンケートによるいじめの兆候に対する早期発見、早期対応 83%	B	<p>アンケート結果などをよく考察して充分対応していると思う。社会の授業などを通して人権教育をやっていたのでアンケートや聞き取り調査を通じて、生徒の変化を読み取り関わる事ができたと思う。</p> <p>アンケートを行い活用している。</p> <p>日々生徒の気持ちを汲み取りながら関わる事ができた。</p> <p>いじめ予防プログラムについては再考していく必要がある。いじめプログラムの活用はしていなかった。</p> <p>学校全体で、取り組む体制作りが急務</p> <p>生徒の気持ちを大切にしたい関わりを意識したが、いじめプロ等の活用は難しかった。</p>
イ	生徒自身の命を守る意識と行動力を育む	通学途上の事故0 地域での防災訓練参加 70%以上 安全で早い避難の実施避難完了3分以内	通学途上の事故2件 地域での防災訓練参加 60% 安全で早い避難の実施避難完了3分以内達成	B	<p>くり返し防災訓練を行うことで、命の大切さや避難経路などを確認することができた。</p> <p>防災訓練などで注意喚起を行い、命を守る意識を養うことができたと思う。</p> <p>授業内容で危険な場合が想定される時は、安全の意識を高める喚起を行った。</p> <p>防災訓練時にはどのような行動を取れば良いか考えさせることができた。</p> <p>迅速に対応していたと思う。</p> <p>さまざまな場面を想定した防災訓練や防災学習ができた。</p> <p>カウンセラーやケース会など丁寧に支援を進めていた。</p> <p>SNSの中での安全などについて</p>

					<p>てはやや不十分かと思いました。</p> <p>学校が生徒一人一人にとって安心して過ごせる場所であるためにも規律が大切だと考えます。</p> <p>防災訓練など水高との連携には課題を残す</p> <p>個別の相談にのることはできたが、もっと積極的生徒指導をすべきだった。</p>
ウ	性についての正しい理解を図る	性差と性の多様性を理解できたとする生徒 100%	性差と性の多様性を理解できたとする生徒 90%	A	<p>個々の実態に応じた教育内容であったと思う。</p> <p>多様な人材は活用しなかったが、段階に応じた指導ができていた。</p> <p>性教育をおこなった研修などで学んだ教材教具などを使用し、性に対する指導を行うことができたと思う。</p> <p>多様な人材を活動してないが、教護教諭と一緒に授業ができた。</p> <p>保健学習の中で男女交際や妊娠の仕組みについて理解を図ることができた。</p> <p>様々な人材を活用していたと思う。</p> <p>計画的に外部講師に来ていただき、授業を進めることができた。</p> <p>外部講師を効果的に活用できている。</p> <p>多様な人材や保健センターと連携して授業を企画した。</p> <p>夏の研修を参考にしているが、まだまだの部分もある。</p> <p>個の実態に応じた指導が必要。</p> <p>集団で一括して知識だけを教示する授業は改善したい。</p>
エ	業務改善による多忙化解消	満足する授業ができたゆとりを持って授業準備ができた	満足する授業ができた、ゆとりを持って授業準備ができた教員 61%	B	<p>教育効果や、地域貢献という面も考慮して業務改善して行きたい。特に水産とのつながりを深める活動（野球応援・フィッシュコンテスト）はよい効果が得られるように思う。</p> <p>個人的にはできていないが、職場としてはできている方が多いと思う。</p> <p>お互いに時間を有効に使うよう</p>

					<p>に心がけていたと思う。</p> <p>メインの授業が重なることが多く、負担が大きいと感じた。はじめて持つ科目や作業班になった関係で授業準備のために必要な時間が今年度は増加した。業務改善による多忙化解消の取り組みを意識できなかった。勤務時間外の準備が多々あった。業務を分担することが難しく、抱えてしまうことが多かった。昨年度とあまり変わった印象を受けなかった。今まででもっとも多忙な1年であった。業務に偏りがある。定時退勤も有名無実。</p>
オ	生徒主体の授業づくりに取り組む	<p>「何をどのようにわかったか考えたか が言えるかける生徒」100% 「自分の良さ・得意がわかる生徒」100% 「自分の課題がわかる生徒」100%</p>	<p>「何をどのようにわかったか考えたか が言えるかける生徒」95% 「自分の良さ・得意がわかる生徒」96% 「自分の課題がわかる生徒」96%</p>	A	<p>表現力というところで、色々な場面で自分の意思を發表できる場面設定が良いと思う。主に職業では、学年で検討して授業をつくることができた。研究授業などを見ても、どの学年もしっかり取り組んでいた。研究を通して取り組むことができた。授業内容を考える時、頭に入れながら行った。生徒主体にするためには事前準備が大切だと思った。研究での授業作りは有効だと感じた。学年会での検討の機会が良かった。研究課を中心に教員間の意識や知識を深めることができたと思う。研究課を中心として学部全体で進めることができた。</p> <p>自分はまだまだ意識が足りないと思うし、生徒主体というところが弱いと感じる。</p>
カ	個々の専門性を向上させる	<p>研修を授業力向上に役立てることができたとする教員100%。</p>	<p>研修を授業力向上に役立てることができたとする教員100%。</p>	A	<p>1年部では、授業カードが有効活用できた。研究に則った様式で授業カード、指導案を準備、実施できた。教材研究をして、授業カードを</p>

				<p>書いて、意欲的にやれていると思う。</p> <p>年3回の授業研、見合う週間はとても役立つ。</p> <p>よく声かけをしていただいた。</p> <p>研究では授業について深く考えることができた。</p> <p>公開授業をやらせていただいて勉強になった。</p> <p>学年や学部でたくさんの時間を使って授業について話し合うことができた。</p> <p>校内研修（研究課）は充実していたと感じる。</p> <p>公開授業はしていないが、授業カードを準備して授業に参画した。</p> <p>あまり他の先生の授業をみる機会がなかった。</p> <p>校内研修で学んだことを実践に活かすことができないこともあった。</p>
キ	自己肯定感を高める	「学校に居場所がある」「相談できる友達や教員がいる」と評価する生徒 100%	「学校に居場所がある」「相談できる友達や教員がいる」と評価する生徒 77%	B <p>色々な場面で生徒が役割を果たして成長していくのを感じた。</p> <p>行事やHRデー等を通してクラスや学年などの所属意識を高めるように関わった。</p> <p>委員会活動で役割を与えて責任感を持たせるようにしている。</p> <p>クラスの企画では、役割を決めて準備を進めることができた。</p> <p>どの生徒も活躍させようとする先生方の姿勢があったと思う。</p> <p>一人ひとり活躍の場が用意されており、自信をもって活動に取り組むことができる生徒が増えている。</p> <p>生徒会で役割意識を持たせたかったが、うまく支援できなかったので、これから支援の方法や仕事内容を検討したい。</p> <p>意識はしているが、人任せになっている生徒もいる。</p>
ク	働き続けるための体力を育てる	走力、投力の向上 80%以上	走力、投力の向上 100%以上	A <p>体育外部講師や早朝の自主トレなど内容の濃いメニューを行っていると思う。</p> <p>トレーニングや体育、校外で行われる各種大会に参加を呼び掛</p>

				<p>けることができた。 毎日の朝トレを実施し、目標や記録を記載させ、体力づくりを意識させることができた。 体育ではゴルフ、バスケットボールを行った。 朝トレでは、不調でもなるべく参加できるように促すことができた。 様々なイベントにも引率した。 計画的な授業や対外試合の実施ができた。 体育の授業を中心に体力づくりがなされていると思います。 金曜日の体力づくりは一定の効果を得たと思う。 持久力が向上していると感じる。対外的な試合でも好成績を収めることができています。</p> <p>部活は一生懸命やる生徒が多いので、トレーニングや体育でも精一杯取り組んでほしい。</p>
ケ	水産高校及び焼津地域での共生・共育を進める	焼津市ボランティア登録の生徒の平均参加回数2回以上	A	<p>水産高校との共生教育の持ち方は事前の打ち合わせが重要なポイントだと思った。 生徒の手で進めるための支援は不十分だったように感じる。 実習先で生徒が職場の方と適切に関われるように配慮や働きかけができたと思う。 水高生との行事での関わりはとてもいいと思う。 実習先に支援の方法などを丁寧に説明するよう心がけたが、十分ではなかった。” 地域作業や交流授業を盛んに行っている。 部活では吹奏楽部や水高祭の有志団体との交流ができた。 特に地域作業や実習を通して、地域の方々のおかげで生徒が成長できている。 生徒に考えさせ実践させる場を設定することができた。</p> <p>分校として積極的に地域と関わる姿勢は継続していきたい。</p>

<p>コ</p>	<p>進路先の確保と就労希望の生徒の就職を実現する</p>	<p>圏域関連諸機関と連携を密に進路決定までの道筋を計画的に示し、進路先の確保及び希望者の就職率 100%</p>	<p>圏域関連諸機関と連携を密に進路決定までの道筋を計画的に示し、進路先の確保及び希望者の就職率 100%</p>	<p>A</p> <p>進路実習、学習会など熱心におこなっていると思う。 保護者からの質問に対して、担任で分からない事は進路に確認をして適切に話しをすることができた。 保護者からの意見をしっかり聞いた。 計画帳でも日常的に保護者と連絡を取り、保護者の相談や要望に対して対応するように努めた。 どの学年も実習に対しては慎重に適切に支援をしていると思う。 面談の中で保護者、生徒と話し合って両者が納得した形をとっている。 本人、保護者が納得できるように進路について話を進めることができた。 進路については直接来校してもらうなどし、丁寧に進めることができた。 進路課を中心に生徒の事をよく考えて指導している。</p> <p>進路説明会を活用して、保護者への進路学習会（情報適用を含む）を計画的に実施していく必要がある。</p>
<p>サ</p>	<p>将来の生活を具体的にイメージできるようにする</p>	<p>保護者や生徒のニーズに答え、卒業後の生活を見据えた支援ができたとする教員 100%</p>	<p>保護者や生徒のニーズに答え、卒業後の生活を見据えた支援ができたとする教員 89%</p>	<p>B</p> <p>生徒の卒業後の生活や就労する姿を意識し、目標を立てて働きかけできた。 面談前だけでなく、新しい授業単元開始時などにも振り返っている。 生活面の支援については保護者に対してもお願いし、様子を連絡し合うことができた。</p> <p>書類の簡略化を推進していきたい。 個別の教育支援計画や指導計画を十分活用できていない。 個人的に、説明を繰り返したが、足りていたかは不明である。 働きかけはできているが、どこまで伝わっているかは不安があ</p>

様式第3号

					る。
--	--	--	--	--	----